

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標及びめざす子ども像・教職員像・学校像

□ 最高教育理念

「澄みゆく心」「かがやく志」の育成

□ 校訓

克己 進取 礼節

□ 教育目的

未来を創造し、たくましく生き抜く力の育成

□ 令和5年度 単年度目標

○ 課題意識を持ち、学び合い、協働して高め合う姿

○ 時と場に応じて正しく判断し、行動する姿

○ 多様な価値観を認め、互いに尊重し、助け合う姿

以上3つの姿の実現

□ めざす子ども像

[I stステージ]

○ やればできるという自信あふれる子ども

○ いけないことを「いけない！」といえる子ども

○ 自分大好き、友だち大好き、なかよく遊ぶ子ども

[II ndステージ]

○ わからないことを克服しようと努力する子ども

○ 下級生を思いやり見守る子ども

○ 協力してやり遂げる子ども

[III rdステージ・卒業時]

○ 挑戦的に学ぶ姿

○ 卑怯を許さない姿

○ つながりを喜びとする姿 以上3つ姿の実現

□ めざす教職員像

○ 「めざす子ども像」の実現に向けて、自ら明確なビジョンを持ち、
主体的に学校経営に参画する教職員

○ 課題解決に向けて、自らのスキルの向上を目指し、学ぶ意欲にあふれた教職員

○ 愛情と慈しみの心を持って子どもたちに接し、社会に貢献できる人材の育成という使命を自覚する教職員

□ めざす学校像

○ 義務教育学校のよさを最大限に活用し、カリキュラム・マネジメントに取り組む学校

○ これからの社会を支える有為な人材を輩出できる学校

2 学校経営方針

1 基本方針

本校では、最上位の目標を「生きる力を子どもに付ける」こととし、それを全教職員で共有した上で教育活動を進める。義務教育学校に移行して6年目を迎える、小中一貫校特有の取組の効果も表れてきている。したがって、今年度もこれまでと同様に、施設一体型小中一貫校の特性を十分に生かした教育活動を組織的に進めていく。一方で、現在行っている取組をあらためて見直していく時期に来ているともいえる。取組の効果を検証するとともに、その目的をしっかりと共有して進めていくことが大切である。またあらゆる取組を進める際、教職員が当事者意識を持って、主体的に取り組むことなくしては進めることができない。そのために常に教職員間でコミュニケーションを密にし、連携しながら進めていくことが不可欠である。そして、これらの取組を保護者や地域の方々に開き、信頼ある学校となるよう、情報発信にも努める。

2 重点項目

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。また、9年間の一貫した学びを実現するために、学びの連續を図るカリキュラムの構築に向けて、単元の系統を意識した授業づくりについて研究を進める。
2. 「課題設定力」「情報選択力」「情報活用力」「相互交流力」「自己活用力」の育成を目指し、授業のみならず他の教育活動においても、探究のプロセスをふまえた取組を実践する。
3. G I G A 端末の活用実績を蓄積し、その有効活用についての研究を進める。
4. 各種調査の結果や質問紙・アンケート・学校評価などの分析により児童生徒の変容を確認、共有し、本校が抱える教育課題を明確にする。その上で、学習に遅れの見られる児童生徒が自ら学ぶ喜びを得できるよう、研究主任を中心として組織的に取り組む。また、児童生徒の状況に鑑み、適切に家庭学習が進められるよう手立てを施す。
5. より良い集団の形成を図る観点から、児童生徒会活動の活性化を進める。そこでは、児童生徒が自他を尊重し、協働的な自治集団づくりを行うとともに、自主的な活動や自己実現を保障する場とする。
6. 日々の観察や情報収集を通して、子どもたちの困りを的確に把握し、個に応じた支援を積極的に図っていく。
7. 児童生徒の生活のあり様を把握し、健康増進や「生命」を大切にする教育を推進する。
8. 「目指す子ども像」「目指す教職員像」「目指す学校像」を達成するために、報告・連絡・相談を密にする中で教職員の意識改革を図るとともに、ミドルリーダーを中心とした創造的、組織的な学校運営を推進する。
9. 働き方改革の視点から、行事の精選をはじめとする教育活動の見直しを進めるとともに、義務教育学校ならではの強みを生かした教育を提供する。